別記様式

担当課	教育部　教育総務課

会議の名称	第１回　鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会
開催日	令和５年６月９日（金）
開催時間	午前１０時００分　開会・午前１１時１５分閉会
開催場所	吹上生涯学習センター　研修室２
出席者(委員)氏名 (出席者数)	（委員） 加藤政夫、中村博政、宮竹輝男、吉田満義、小林久恵、矢部奈美 棚澤大輔、池澤道弘、清水良江、清水励、福田悟 （委員以外のもの） 石田恵子 （１２名）
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	茂刈哲夫　（１名）
事務局職員職氏名	教育部長　齊藤　隆志 教育部副部長兼学務課長　池田　耕司 教育総務課長　松本　直樹 教育総務課主査　新井　洋平 教育総務課主任　堀　智紀 学務課主任　小川　悠喜 （６名）
傍聴の可否 (傍聴者数)	可（傍聴者２名）
会議の内容	（議題） １　開会 ２　あいさつ ３　委員紹介 ４　懇談内容 ・小谷小学校の通学区域について ５　その他 ６　閉会

	（事務局説明内容） ・鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会に諮問し、令和４年８月26日に答申書が提出されている。 ・教育委員会では、当初、地域は一体と考え、吹上小学校との統合という案を示していたが、意見交換会や地域へのアンケート調査、また、平成27年時の学校評議員との意見交換会においても、合併から15年以上が経過しており、隣接する赤見台第二小学校や箕田小学校などを含めた通学区域の見直しの検討も必要なのではないかという意見をいただいていることから、本懇話会で検討していきたいと考えている。 ・通学区域の見直しにおける、現時点で教育委員会が考えている案は以下のとおり。 明用・前砂地区　⇒　吹上小学校、吹上中学校 三町免・小谷北地区　⇒　赤見台第二小学校、赤見台中学校 小谷南地区　⇒　箕田小学校、赤見台中学校 ・統合年度については、最短で令和７年度を検討している。 ・小谷学童代表石田恵子氏、意見聴取のため出席いただいた。 （懇話会委員の主な意見） ・在校生は吹上小学校という提案だが、中学校は赤見台中学校に進学することも考えられるのか。それとも全員で吹上中学校になるのか。 ⇒同じ小学校から同じ中学校に進学するということが適正配置等の考え方にも示されている。在校生全員で吹上小学校に進学した場合は、全員が吹上中学校に進学するように考えている。 ・赤見台中学校を希望する場合、小学校時点で吹上小学校ではなく、箕田小学校や赤見台第二小学校を選択しなければならないのか。 ⇒現在の教育委員会の考え方としては、明用・前砂地区は吹上小学校、三町免・小谷北地区は赤見台第二小学校、小谷南地区は箕田小学校に通学区域を変更するのが良いのではないかと考えている。中学校への進学は、原則として、吹上小学校から吹上中学校、赤見台第二小学校及び箕田小学校は赤見台中学校というように考えている。 ・小学校はスクールバスが運行されることに加え、友人関係も考慮し吹上小学校に行かせたいと考えているが、吹上中学校までは非常に遠距離となっており、下校時の道は暗くて心配。安全性を考えると、中学校に進学する際は赤見台中学校を選択したいと考えている、といった保護者の意見を伺っている。 ・中学校でスクールバスを運行する予定はないのか。 ⇒中学校でのスクールバス運行については予定していない。 ・小谷南地区は、小谷小学校と比較し、箕田小学校のほうが近いが、倍の時間をかけて小谷小学校に通学しているのが現状となっている。合併する前の地域のことばかり考えてい

	たら、児童のためにはならない。旧鴻巣と旧吹上という意識にとらわれない、箕田・赤見台第二小学校を含めた通学区域の変更というのは非常に良い案だと思う。合併して 17 年経つことから、過去の行政界は払拭していかなくてはならない。 ・過去の統合で、経過措置期間を設けたときに問題はなかったのか。 ⇒笠原小学校と鴻巣中央小学校の統合の際は、安養寺地区については兄弟関係等を考慮し、鴻巣北小学校と鴻巣中央小学校を選択できる期間を設けている。結果として、全員が鴻巣北小学校を選択しているが、現状問題はない。 ・在校生については友人関係等を考慮し、スクールバスを運行した上で吹上小学校に通学という提案だが、そのような経過期間は設けなくても良いのではないか。 　慣れるまでの期間は心配かもしれないが、子どもはすぐに慣れてしまうもので、あまり過保護にならないほうが良い。スクールバスに慣れてしまうと、各小学校に通学区域を分割する際に、抵抗があるのではないか。 ・予算は限られているため、スクールバスの運行に多額の費用はかけないほうが良いのではないか。 ・子どもは環境の変化に順応するのは早いとは思うが、一度、子どもの意見を聞く機会を設けてほしい。 ・学校が変わることで、保護者の環境も変化してしまう。スクールバスの乗降場所はどこになるのかということを気にしている保護者もいる。 ・小谷小学校での生活がガラッと変化してしまうことは、子どもたちにとって大きな負担になる。 ・通学区域を分割する場合は、保護者に選択させるのではなく、教育委員会にて通学する学校を決めてほしい。 ・将来を見据えると、学校再編はやむを得ないことかもしれない。しかし、学童は引き続き同じ所を使用したい。仮に、赤見台第二小学校や箕田小学校に通学することになった場合、小谷学童を使用することはできるのか。 ⇒学童の利用に関する決定基準は市で設けるが、小谷学童は民設民営の学童であることから、運営方法については学童の考え方次第な部分もある。 ・吹上小学校に通学する児童については、小谷学童を選択することができる可能性もある。

	その際は、小学校から学童まで、可能な限りスクールバスに乗車させてほしい。乗車できない分は、学童で対応したいと考えている。 　しかし、箕田小学校や赤見台第二小学校については、こども応援課も許可しないと思われる。また、学童としても３つの学校すべてにバスで迎えに行くことは難しい。 ・赤見台第二小学校や箕田小学校に通学した場合は、小谷学童に入室することができないのであれば、在校生全員で吹上小学校に通学させてもらいたい。 ⇒笠原地域では、統合の際に笠原放課後児童クラブに引き続き入室させたいと考える保護者が大半であった。しかし、子どもたちは、友達が多く通う鴻巣中央小学校の放課後児童クラブに入室したいと考える子も多く、最終的には大半の保護者が鴻巣中央小学校の放課後児童クラブを選択している。 ・小谷南地区から箕田小学校は非常に近く、通学区域を分割するという意見については賛成。しかし、友人関係等の課題も多い。 　こういった課題を解決するためにも、在校生については、全員で吹上小学校に通学するのが良いのではないか。スクールバスを運行してもらえるのであれば、安全に通学することもできる。 ・仮にスクールバスを運行する場合、いつ頃までを予定しているのか。 ⇒令和６年度の入学児童が卒業するまでの運行を検討している。 ・兄弟姉妹で別の学校になるのは難しいのではないか。 ⇒笠原小学校の統合の際も、兄弟で別の学校に通学しているケースがあった。また、現状でも、北新宿地区に関しましては下忍小学校と吹上小学校に兄弟姉妹で別々の学校に通学しているケースがある。 ⇒意見交換会の中では、未就学児童の保護者から、「今後、統合することが決まっているのであれば、できる限り早い年度で統合してほしい。１年だけ小谷小学校に通わせ、その後吹上小学校に移るということは避けてほしい」といった意見もいただいている。 ・スクールバスの運行基準は。 ⇒国の基準では、通学の際、道のりが４km を超える場合はスクールバス等の通学方法を検討するものと示されている。しかし、市内では４km というのは現実的に徒歩で通学するには厳しいと考え、市独自で各小学校から直線距離で２km という基準を設けている。 　資料２で示されている円は、小学校から直線距離で２km を示しているもの。小谷北地区は赤見台第二小学校の円に、小谷南地区は箕田小学校の円に入っている。 ・子どもも自分の意見や考えは持っており、それを尊重するのは大事なことであり、選べ

	るほどの材料が提供できているのであれば､子どもに選択させるということも考えられる。 　しかし、選べるということは選び直しも可能という様に子どもは考えてしまう。やり直しができないことを選択させるのは酷なことではないか。ある程度、大人が枠組みを作ってあげ、背中を押してあげるような環境を作ってあげることが大切だと考える。 　例えば、箕田小学校と吹上小学校を選択できる児童が吹上小学校を選択した場合、吹上小学校で何かトラブルがあったとき、やっぱり箕田小学校にしておけば良かったなど、子どもたちを追い込んでしまうこともある。小谷小学校が無くなってしまったから、あなたの学校は箕田小学校になりますよと言ってあげたほうが良いのはないかと思う。 ・現在、小谷小学校に通学する一部の児童は非常に長い距離を歩いて通学している。通学距離については短くしてあげたほうが子どもたちにとっては良いのだと思う。一方で、通学区域を分割することで地域の分裂を招いてしまうかもしれないというのは、一つ懸念するところである。 ・早ければ令和７年度に統合ということだが、小谷小学校の体育館は市内で一番新しい。また、芝生についても、保存会の方が丁寧に管理してくれている。そういう施設等をなるべく生かしていくとした時に、令和７年度が最適なのかということの検証が必要なのではないかと思う。 ⇒仮に、小谷小学校が統合となったとしても校舎等を解体することは考えていない。体育館や芝生、校舎を活用する方法を検討したい。 ・小学校での環境の変化に加え、中学校進学時にも環境が変化してしまうのは心配な部分である。中学校に進学した際に、環境に対応できない子どもが多いということを聞いている。小さい子どもは大人以上に適応力があるので、友達もすぐにでき、新しい環境に適応するが、中学生は難しい面もある。それが原因で学校に来られなくなるケースもある。 ⇒通学区域が原因の不登校は一定数ある｡同じ小学校から同じ中学校に進学するとなれば、このような問題は解消されるものもある。 ・小谷小学校も少し前までは一クラス 20 人以上いて、集団行動も可能であり、子どもたちにパワーを感じた。しかし、20 人を切ると集団行動も難しくなり、子どもたちが弱くなって、生きる力が無くなってきていると感じる。 　今の２年生は 11 人（男女比 3：8）しかいない。学童で別の学年の子と遊べるが、同じ学年には遊ぶ子がいない、下校班も組めないというのが現状。対して、田間宮小学校は規模が大きく、パワフルで元気。小谷学童でも田間宮小学校の２年生児童を２人だけ受け入れているが、それぞれ小谷小学校の児童と楽しそうに遊んでいる。子どもの高い適応力を感じる。

	・小谷南地区は箕田幼稚園やエンゼル幼稚園に通園していた家庭が多い。また、子どもの習い事の関係もあり、箕田小学校に友達がいる児童も多い。 ・祖父母が学童まで迎えに行く際に、遠くまで迎えに行くのは負担であり、近くにあってほしいという家庭も多い。 ・子どもは適応するのに時間はかからないかもしれないが、保護者は時間がかかる。保護者の意見も大事にしてもらいたい。 ・赤見台第二小学校に通学する場合、友達と遊ぶ場合も中山道、踏切を渡って赤見台に行くケースが考えられる。遊ぶ範囲が広がるのは保護者として心配なところである。
配布資料	① 第１回鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会次第 ② 【資料１】答申と計画 ③ 【資料２】通学区域図と小谷小学校の児童数推移 ④ 【資料３】小谷地域周辺図